

同窓会会報

熊本大学医学部保健学科 第7号



熊本大学医学部保健学科第8回同窓会総会後記念写真（平成23年7月2日）

| | | |
|----|---------------------|---|
| 目次 | 同窓会会長あいさつ…………… | 1 |
| | 保健学教育部長のあいさつ…………… | 1 |
| | 卒業生の寄稿…………… | 2 |
| | 在校生の寄稿…………… | 4 |
| | 同窓会総会議事録…………… | 5 |
| | 特別講演…………… | 6 |
| | 国家試験合格状況…………… | 6 |
| | 平成22年度卒業生の進路状況…………… | 7 |
| | 保健学科教員紹介…………… | 7 |
| | 同窓会会則・細則…………… | 8 |
| | 同窓会役員…………… | 9 |
| | 編集後記…………… | 9 |

平成24年度同窓会総会、特別講演 および懇親会のご案内

平成24年7月7日（土）14時より、第9回保健学科同窓会総会、特別講演ならびに懇親会を開催いたします。場所は熊大医学部保健学科です。是非、皆様のご予定に入れていただきご参加をお待ちしております。

住所変更の場合は、下記にご連絡ください。

TEL：096-382-1177（小野高速印刷）

メール:kumamoto@ohp.co.jp(小野高速印刷)

「同窓会会報」第7号の発刊に寄せて

保健学科同総会会長 宮里邦子 (熊本大学大学院生命科学研究部環境社会医学部門・看護学講座
熊本大学医学部保健学科・看護学専攻)

皆様には、平素より多大なるご理解とご支援を賜りまして、深く感謝申し上げます。

おかげさまで、本年3月に「熊本大学医学部保健学科同窓会会員名簿」の第2版を発刊することができました。平成18年に会員名簿の初版を発刊しました当時は、保健学科の第1期生及び第2期生が在学中でございましたので、まずは医学部附属学校の各学校、医療技術短大の各学科の卒業生名簿をまとめて初版が発刊されました。その後、教育学部特別教科(看護)教員養成課程の同窓会が統合され、第2版名簿では、教育学部特別教科(看護)教員養成課程の同窓会名簿、および保健学科卒業生の第1期生から第4期生までと、保健学教育部修士課程修了生の第1期生と第2期生までの名簿が加わり、名実ともに保健学科同窓会会員名簿としての形が整いました。看護婦養成所時代の昭和4年卒業の大先輩から、平成23年3月卒業の保健学科第4期生までのじつに80数年のお名前を連なりを拝見しますと、連続と引き継がれてきたメディカル教育の歴史の重みや、その時代時代における諸先輩の確たる足跡に思いを深くしております。

7月2日(土)には第8回同窓会総会を開催いたしました。総会では、平成24-25年度の同窓会会長として熊本大学医学部附属病院の橋田昌弘様が承認されました。次期の橋田新会長のもと、保健学科同窓会はますます発展することが期待されます。総会後の特別講演は、「福島原発事故を理解する」というテーマで、保健学科教員の肥合康弘様と前出の橋田昌弘様のお二人の同窓生にそれぞれ講演していただきました。

保健学科同窓会は、熊本大学の七つの学部等同窓会からなる同窓会連合会に所属し、学部の枠を越えた同窓会組織と同窓生の横断的な交流や連携を図っております。今年度は、新たに関西地区に、「熊本大学関西連合同窓会」が設立されることとなり、平成23年12月3日(土)に設立記念式典及び祝賀会が開催されることとなりました。また、関東地区では、第4回熊本大学東京連合同窓会が平成24年5月26日(土)に東京ガーデンパレスにおいて開催予定です。関東地区の皆様には、別途、同窓会連合会よりご案内いたしますので、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

医学部保健学科の現状について

熊本大学医学部保健学科長 木原信市 (熊本大学大学院生命科学研究部環境社会医学部門・看護学講座
熊本大学大学院保健学教育部長 熊本大学医学部保健学科・看護学専攻)

同窓会会員の皆様におかれましては、ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

保健学科では、平成16年4月から第一回生を迎い入れて以来、平成23年度現在、4学年を社会に送り出しました。当面の目標でありました、就職と国家試験合格率もほぼ満足する結果を残せたことは、これもひとえに、教職員のご尽力や同窓会の皆様の後押しのおかげであると、感謝いたしております。

保健学科では、教育内容、教育環境関連、運営面など考えられる改組は、ほとんどが終わった感がありますが、今後は社会のニーズに対応した新たな専攻の設置の検討、教員の各講座での配置人数の見直し、3年次編入制度の検討などが狙い通りに上がると想像されますが、今後の執行部の懸案事項になるかと思っております。

熊本大学大学院保健学教育部では、前期課程(修士課程)、後期課程(博士課程)とも受験生が多く、責任者としてホッとしているところですが、ただ合格者を限定するのにたいへん苦勞しております。定員の見直しの時期にきております。旧短大や特看出身者も社会人として入学し、研究に励んでおります。修士号や博士号を持った同窓会会員が増え、教育現場や医療現場でリーダーシップをとれる人材が数多く出てくることは、たい

へん喜ばしいことと思っております。平成23年度からは、社会のニーズに沿って前期課程に新たなCNSコース（在宅部門）を設置いたしました。今後は癌看護での設置を計画しております。

現状では、多々、問題は残っておりますが、保健学科、大学院ともほぼ順当に走り出しておりますので、どうぞご安心ください。

保健学科同窓会の皆様におかれましては、学生の教育環境のよりよい改善のため、熊本大学基金等へのご寄付を通して、今後とも物心両面でのご支援を宜しくお願い申し上げます。

最後に、熊本大学医学部保健学科同窓会と同窓会の皆様のご発展を心より祈念いたしまして挨拶いたします。



卒業生の寄稿

熊本大学医学部附属病院に勤務して

熊本大学医学部附属病院

坂口 葵 (保健学科看護学専攻 3期生)

私は、学生のころから助産師として働くことを希望しており、昨年の10月から熊大病院の周産母子センターに勤務しています。勤務して約1年が経ちますが、その短い間にも、生命の誕生や死に関わり、生命を授かること、また、授かった生命が無事出産に至るといったことが、どんなに素晴らしいことで、どれほど大変なことかということ、さらに、生命を失うということがどれほど悲痛なものかを日々考えさせられています。

大学病院では、重症例も多く自分の行いにとても責任が伴うと思います。1分1秒を争うような場面における冷静な判断は、未だ一人ではできないことが多いですが、先輩助産師が状況に応じて適宜指示やアドバイスを出してくださいます。また、多くの先輩方のケアを間近で見せていただくことや一緒に振り返っていただくことは、とても勉強になるし、患者さんにとっても一貫したケアとなったりしています。自分自身でも、分娩介助に付いたときは振り返りを行っていますが、それを繰り返すことで徐々にタイミングや変化もわかるようになり、最近のお産では「あの時こうしてもらってすごく楽だった、とても満足のいくお産だった」と言ってもらえることができました。病棟において、先輩助産師もそうですが同期にもとても助けられています。私は10月異

動だったので4月から勤務している同期も含め10名近く同じ病棟にいます。これだけ人数がいると、勤務の時は誰か一人は顔を合わせるような感じで、とても安心感があります。また、院内にいる同大学出身のスタッフとあって、色んな話を聞くことができるので、周産母子センターという場所に勤務していても、違う分野に関して考える機会をもつことができます。働くということは大変なことですが、様々な関わりがあり自分を成長させてくれる場所だと思います。これからも日々頑張っていこうと思います。

博士前期課程の社会人学生になって

医療法人社団法人優会 熊本放射線外科

下東 吉信 (医療技術短期大学部診療放射線技術学科 21期生)

私は、医療技術短期大学部を平成13年3月に卒業し、診療放射線技師として医療現場で約10年間従事しています。まだ未熟者なのですが、この10年間を振り返ってみると卒業してから1～2年目は、一般撮影やMRI・CT検査などの日常的な仕事を覚えることに精一杯だったのを記憶しています。3年目を過ぎた頃から仕事に対して少しずつ自身や余裕が持てるようになり、撮影技術の改善や学会発表などの活動ができるようになりました。現在は、主に放射線治療に従事し、照射業務や放射線治療装置の安全管理を担当しております。しかしながら、医療現場では次々と新しい技術が導入され、それに対応していくには日々勉強をしなければならないと痛感してお

ります。そのような社会人生活を過ごす中で、技師の先輩であり、かつ今は指導教員である荒木不次男先生と出会い、放射線治療の面白さやそれに対する研究の重要性を知りました。そこで私は、大学院への入学を決意しました。理由は、日々進歩する医療技術に対して勉強をすること、もう一つは研究を行い医療技術に対して微力ではありますが、何か貢献できないかと思ったためです。実際、大学院生活が始まると仕事と研究で忙しい日々を過ごしましたが、有意義な社会人学生生活を送っています。また、入学して同級生となったのは、僕より10歳年下の学生さん達でした。学生と一緒に授業を受けて思ったことは、自分が学生だった頃よりも遥かにレベルが上がっていることです。僕自身は、大学院に入学して本格的に英語論文を読んで勉強したのですが、彼らは4年生時のリーサーチトレーニングですでに英語論文に触れ勉強しています。彼らに刺激を受け、社会人の先輩としても負けられない気持ちで残りの大学院生活を頑張っていこうと思います。今後も社会人と学生を結びつける同窓会を続けて頂き、お互いに刺激し合う機会が設けられることを願っています。



新たな診断法開発へのチャレンジ ～検査技術の将来を担う学生とともに～

熊本大学大学院生命科学研究部医療技術科学講座

田崎 雅義 (保健学科検査技術科学専攻 2期生)

私は、熊本大学保健学科検査技術科学専攻を平成21年3月に卒業後、世界の最先端の医科学を学びたいという思いから熊本大学大学院医学教育部へ進学しました。そこで、私は、アミロイドーシスという難治性疾患に対する治療法や診断法の開発に関する研究を行ってまいりました。その研究生活の中で、私は医療における検査技術の果たす役割の大きさを実感したのと同時に、臨床検査の領域はまだ発展途上であり、医療の質を高めるためには、本領域の技術革新が不可欠であると感じました。医療における検査技術の担う役割は多岐に渡っており、疾患を早期に発見し早期治療へ導くことや病状のモニタリングはもちろんのこと、正確に病態を把握することから始まる新たな治療法の開発にまで至っております。私は、このように医療の発展に欠かすことのできない検査の領域に魅了され、自らの手で新たな診断法を開発し、一人でも多くの命を救いたいとの思いから、今年4月に母校である熊本大学保健学科検査技術科学専攻に戻り、研究と教育を行っております。母校に赴任して、私が最も驚いたのは、学生の志の高さとその能力です。日々の学校生活の中で、時に、学生の学問に対する熱意や探求心に圧倒され、時に、学生の柔軟な発想に閃きを得ることさえあります。私は、今、検査科4年の学生とともに、質量分析装置を用いたアミロイドーシスの新たな診断システムの構築を行っております。本システムが確立すると、ごく早期の診断や適切な治療、また新規治療法の開発への道を切り開くことを可能にすると考えております。将来、世界の検査業界を牽引してくれるであろう本検査科学生とともに日夜研究に勤しみ、試行錯誤しながら、新たな診断法の開発に向けて尽力し、本大学が検査技術の情報の発信基地となるよう努力してまいります。

在校生の寄稿

大学生活を振り返って

看護学専攻4年 石田 えみ

卒業も間近に迫り、大学生活を振り返ってみるとたくさんの思い出があり、とても充実した大学生活であったと思います。看護の勉強を始めたばかりの1年生の頃は、テスト前日に友人と徹夜で勉強していました。わからないところは互いに教えあい、教科書で調べながらの勉強は、なかなか進まず、毎回「もっと早くからやっておけばよかった。」と思っていたものです。実習が始まり、実際に患者様と関わるようになると、さらに自分の知識不足を悔しく思い、夜中まで友人と勉強しました。友人だけでなく、深夜まで残って指導してくださった先生方がいたからこそ、乗り越えられたと思います。

大変だったこと、つらかったことも振り返ってみると、楽しかった思い出とともに、今ではすべてが良い思い出であり、自分自身にとってよい経験になっています。

そして、なにより多くの友人ができました。サークル活動では他学部の友人もできました。多くの出会いが、さまざまな価値観・考え方を教えてくれました。悩みや辛いことも一緒に乗り越えてきた仲間がいることは、私にとって何よりの強みになっています。今後就職し、辛いことも辛いこともあると思います。そんなときは、これまで同様、支えあい助け合いながら乗り越えていきたいと思います。

病院実習を終えて

放射線技術科学専攻4年 栗山 遼

5月の半ばから7月の末まで、熊本大学医学部附属病院をはじめとした熊本市内の病院で実習をさせていただきました。

実際に臨床の現場に出るのは皆初めてで緊張していました。また、日頃大学の講義で習っていることが、臨床でどのように使われているのか、診療放射線技師の具体的な仕事の流れがどのようなものか、はっきりと知りませんでした。

技師さんたちは皆さん忙しいそうでしたが、私たち学生に医療装置のことや解剖のこと、仕事のことなど、非常に丁寧に教えてくださいました。患者さんに対しての接し方も見ておくように技師さんに言われ、医療従事者の患者さんへの接遇の大切さも感じました。病院実習に行く前に「接遇研修」というものが、大学内で講師の先生をお招きして行われましたが、本当にその通りでした。患者さんにいかに気持ちよく診察を受けて満足していただけるか、このことが今の時代には求められていました。

病院実習を終えて、私の場合は自分の勉強不足を改めて

痛感しました。特に、解剖の知識がしっかりと頭に入っていないと、いい写真は決して撮ることができないと思いました。

さらに、いろんな方に就職や仕事についてのお話もお聞きして、診療放射線技師の国家資格を取ってからどんな仕事をしたいのか、どのような病院に就職したいのか、具体的に固まってきたように思います。

2か月半におよぶ病院実習をクラス全員で学ぶことによって、また一段とクラスの仲も深まり、団結力も強まったはずで

深い検査技術を学ぶために

検査技術科学専攻4年 小川 千穂

私は、4年前に、医療に携わる仕事に就きたいという思いから、臨床検査技師になることを目標に、保健学科検査技術科学専攻に入学しました。入学後、1年次では、講義で検査医学の基礎を学び、2年次には、実習が始まり、その中で、検査技師の仕事を学ぶことができました。3年次には、講義や実習の内容もより臨床を想定したものとなり、検査技師として働くための基礎技術を習得することができました。最終学年である4年次では、実際に病院で実習を行い、検査技師の仕事を肌で体験することができました。この4年間の学生生活の中で、検査技術の領域は、多くの知識と技術が必要とされる領域であると感じました。現在、私は、卒業研究で田崎先生のご指導のもと、家族性アミロイドポリニューロパチーの診断に関する研究を行っています。その日々の研究の中で、検査技術の領域は私が考えていた以上に、広くとても深いものだと思われ再認識させられました。私は今、将来に向けて夢が大きく膨らみ、検査技師に必要な多くの知識と技術を身につけるために、大学院に進学しようと考えています。臨床検査技師の仕事は医療の発展の上で、とても大切な役割を果たしているため、私は大学院に進学して、先端医療の知識を身に付け、医療の発展に貢献できる検査技師になるために日々勉学に励んでいきたいと思っています。



第8回熊本大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日 時 平成23年7月2日（土）14：00～14：30
 場 所 熊本大学医学部保健学科講義室（5F）
 出席者数 62名
 議 長 谷口まり子氏（熊本大学医学部保健学科）

＜総会式次第＞

開会の辞
 同窓会会長挨拶
 保健学科長挨拶
 議長選出
 議事

1. 平成22年度事業及び会計に関する報告
 - ① 事業報告
 - ② 決算報告
 - ③ 監査報告
2. 平成23年度事業計画（案）
3. 平成23年度予算（案）
4. 平成24年・25年度会長選出
5. その他

閉会の辞

【 報 告 】

14時、副会長より開会が告げられ第8回同窓会総会が開会された。

最初に、会長が会を代表して挨拶を行い、続いて吉永一也熊本大学大学院保健学教育部副部長のご挨拶が行われた。その後、谷口まり子氏（熊本大学医学部保健学科）を総会議長に選出し、議事に従い5項目の議案の審議が行われた。

1. 平成22年度事業報告及び会計に関する報告

会長より保健学科のオープンキャンパスへの支援や同窓会会報第6号発行等、1年間の事業が報告された。

また、23年3月に同窓会名簿が発行されたとの報告があった。

会計幹事より22年度の会計について決算状況が報告された。この中で保健学科入学生の会費の納入率が低かったために当初予算より収入が少なかったとの報告があった。

その後、監事より5月20日に行った会計の監査結果について、報告が行われた。



会場風景

＜質疑＞

質問等がなく、採決を行い、出席者の賛成多数で平成22年度事業報告、決算報告並びに会計監査報告は承認された。

2. 平成23年度事業計画（案）について

会長より、23年度事業計画（案）について説明があり、昨年行った事業を継続し、第7号の同窓会会報の発刊についての説明があった。

3. 平成23年度予算（案）について

23年度予算（案）について会計幹事より説明があった。

＜質疑＞

質問等がなく、後採決を行い、参加者の賛成多数で平成23年度事業報告（案）、平成23年度会計予算（案）は承認された。

4. 24年・25年度の会長選出

会長より、出席者に会長候補者の説明があり、満場一致で橋田昌弘氏（熊本大学附属病院医療技術部部长診療放射線部門長兼任）の会長就任が決まった。その後、新会長の橋田昌弘氏より挨拶があった。

5. その他

その他の追加議題はなかった。

以上で、議案審議が全て終了し、議長は、「会員一人ひとり同窓会の発展の為、協力していきましょう」と挨拶後、降壇した。

最後に、副会長より「今年のお出席者が同期生にも呼びかけていただき、来年さらに多くの同窓生が総会に参加されますようにお願いします。」と閉会の挨拶があり、予定時間に終了した。

尚、この後、「福島原発事故を理解する」をテーマに、講演1：「放射能の基礎的知識」肥合康弘氏（熊本大学大学院生命科学部医療技術科学講座）講演2：「福島への放射線サーベイ派遣」橋田昌弘氏（熊本大学附属病院医療技術部部长診療放射線部門長（技師長）兼任）と題した講演会を行い、その後、懇親会が行われた。

平成23年7月2日

議事録署名人 前田 浩

特別講演

福島原発事故を理解する「放射能の基礎的知識」

肥合 康弘 (熊本大学大学院生命科学研究部医療技術科学講座)

東日本大震災により、絶対安全だと言われていた原子力発電所が事故を起こし、放射性物質が飛散した。人々を不安にさせたのは、その現実



はもちろんであるが、事実が何であるかがわからない事の方が大きかったのではないかと考える。政府からの発表である、「ただちに健康に影響を与えるものではない」という曖昧な言葉も、より一層の不安をかき立てたとも考えられる。この言葉に「ただちに影響がなくても、後に影響が出るんだろう」と思った人も多いのではないだろうか。

今回の事故において、一般の方々が被曝し、今後被曝すると予測される線量は、多くても数mSvだと考えられる。100mSv以上の被曝では、確率的影響と言われ発癌などの確率が、わずかではあるが線量に応じて上昇するというデータが出ている、しかしそれ以下の線量の被曝が健康に与える影響は、専門家の間でも意見が分かれている。

100mSv以上と同じように確率は低くなるが影響が有る(直線仮説)とする意見、ある線量(しきい値)以下は無いとする意見、逆に良い影響を与える(ホルミシス効果)という意見等があり、確定的な科学的裏付けの無い事が話を難しくしている。また、発がんのリスクは、放射線の影響だけでなく、喫煙やストレスなど他の多くの要因が合わさって大きくなっていく。もちろん、被曝をしないにこしたことはないが、むやみにそれを心配してストレスを溜める事もリスクを高める事になる。そのような事も理解して正しく恐れる事が必要である。

福島への放射線サーベイ派遣

橋田 昌弘 (熊本大学附属病院医療技術部部长診療放射線部門長兼任)

平成23年4月1～4日で、羽手村副技師長と共に福島県に放射線サーベイで派遣されたので、その概要を報告した。

初日夜に対策本部(自治会館:福島市)で打合せを行い、2日半(2日～4日AM)サーベイ業務に従事した。サーベイ会場は毎日変わり、1か所の避難場所(県中部のイベント会場)と2か所の保健所(県中部と県南部)に派遣された。事故から3週間経過したため、放射能は減り、線量の高い汚染者(物)おらず、サーベイ希望者は減少傾向であった。しかし、依然と住民の放射線に対する不安は大きいため、サーベイの目的は、この不安を少しでも和らげ、風評被害を少なくすることであった。

福島は、地震、津波、放射線の3重苦で、復旧が大きく遅れていた。避難所で、避難生活を実際に見ると想像以上に大変なものであった。また、風評被害も非常に大きく、物質面の支援は当然だが、社会面(風評)への支援も必要であった。今後は、これにメンタル面や社会面(仕事等)の支援も必要になる。災害支援は、①派遣者は自己完結、②支援の継続、③住民のニーズに合う、これらが重要であることを、実際現地に入りひしひしと感じた。



今回の災害派遣では、初めての経験でもあり、多くの事を学ばせてもらった。今後も、被災地を忘れずに、自分のできる範囲で支援を続けたい。

懇親会風景



国家試験合格状況

| 試験種類 | 受験年度 | 本学新卒者 | | | 全国(含既卒者) | | |
|---------|------|---------|---------|--------|----------|---------|--------|
| | | 受験者数(人) | 合格者数(人) | 合格率(%) | 受験者数(人) | 合格者数(人) | 合格率(%) |
| 看護師 | 19 | 65 | 65 | 100.0 | 51,313 | 46,342 | 90.3 |
| | 20 | 65 | 64 | 98.5 | 50,906 | 45,784 | 89.9 |
| | 21 | 72 | 72 | 100.0 | 52,883 | 47,340 | 89.5 |
| | 22 | 71 | 70 | 98.6 | 54,138 | 49,688 | 91.8 |
| 保健師 | 19 | 74 | 70 | 94.6 | 11,055 | 10,066 | 91.1 |
| | 20 | 77 | 77 | 100.0 | 12,049 | 11,773 | 97.7 |
| | 21 | 84 | 81 | 96.4 | 13,048 | 11,295 | 86.6 |
| | 22 | 80 | 75 | 93.8 | 14,819 | 12,792 | 86.3 |
| 助産師 | 19 | 14 | 13 | 92.9 | 1,722 | 1,690 | 98.1 |
| | 20 | 17 | 17 | 100.0 | 1,742 | 1,741 | 99.9 |
| | 21 | 16 | 9 | 56.3 | 1,901 | 1,579 | 83.1 |
| | 22 | 14 | 14 | 100.0 | 2,410 | 2,342 | 97.2 |
| 診療放射線技師 | 19 | 25 | 22 | 88.0 | 2,444 | 1,789 | 73.2 |
| | 20 | 43 | 34 | 79.1 | 2,547 | 1,896 | 74.4 |
| | 21 | 39 | 39 | 100.0 | 2,460 | 1,969 | 80.0 |
| | 22 | 36 | 35 | 97.2 | 2,409 | 1,712 | 71.1 |
| 臨床検査技師 | 19 | 27 | 27 | 100.0 | 3,997 | 2,947 | 73.7 |
| | 20 | 38 | 37 | 97.4 | 3,701 | 2,657 | 71.8 |
| | 21 | 33 | 32 | 97.0 | 4,060 | 2,753 | 67.8 |
| | 22 | 30 | 30 | 100.0 | 3,959 | 2,652 | 67.0 |

平成22年度卒業生の進路状況等について

H23. 6. 3現在

| 看護学専攻 (卒業生80名) | | |
|----------------|-----|----|
| (就職) | | |
| 熊本大学医学部附属病院 | 熊本県 | 23 |
| 熊本赤十字病院 | 熊本県 | 5 |
| 福田病院 | 熊本県 | 4 |
| 済生会熊本病院 | 熊本県 | 3 |
| 熊本県職員 | 熊本県 | 1 |
| 荒尾市職員 | 熊本県 | 1 |
| 宇土市職員 | 熊本県 | 1 |
| 九州大学病院 | 福岡県 | 6 |
| 国立病院機構九州がんセンター | 福岡県 | 2 |
| 福岡市職員 | 福岡県 | 3 |
| 浜の町病院 | 福岡県 | 1 |
| 福岡大学病院 | 福岡県 | 1 |
| 九州厚生年金病院 | 福岡県 | 1 |
| 福岡赤十字病院 | 福岡県 | 1 |
| 小倉記念病院 | 福岡県 | 1 |
| 久留米市役所 | 福岡県 | 1 |
| 久留米大学病院 | 福岡県 | 1 |
| 長崎大学病院 | 長崎県 | 1 |
| 国立病院機構長崎医療センター | 長崎県 | 1 |
| 大分赤十字病院 | 大分県 | 1 |
| 新別府病院 | 大分県 | 1 |
| 大分県津久見市役所 | 大分県 | 1 |
| 新武雄病院 | 佐賀県 | 1 |
| 佐賀県職員 | 佐賀県 | 1 |
| 国立病院機構嬉野医療センター | 佐賀県 | 1 |
| 宮崎東病院 | 宮崎県 | 1 |
| 大阪医科大学附属病院 | 大阪府 | 1 |
| 東京大学医学部附属病院 | 東京都 | 3 |
| 聖路加国際病院 | 東京都 | 1 |
| 杏林大学医学部付属病院 | 東京都 | 1 |
| 駿河台日本大学病院 | 東京都 | 1 |
| 日本赤十字社 | 東京都 | 1 |
| 順天堂大学附属順天堂医院 | 東京都 | 1 |
| 順天堂大学医学部附属浦安病院 | 千葉県 | 1 |
| 就職小計 | | 75 |
| (進学) | | |
| 熊本大学養護教諭特別科 | 熊本県 | 3 |
| 徳島大学助産学専攻科 | 徳島県 | 1 |
| 進学小計 | | 4 |

| 放射線技術科学専攻 (卒業生38名) | | |
|--------------------|-----|----|
| (就職) | | |
| 済生会熊本病院 | 熊本県 | 2 |
| 整形外科井上病院 | 熊本県 | 2 |
| 熊本大学医学部附属病院 | 熊本県 | 1 |
| 日赤健康管理センター | 熊本県 | 1 |
| 川口病院 | 熊本県 | 1 |
| 西村内科脳神経外科病院 | 熊本県 | 1 |
| 荒尾市民病院 | 熊本県 | 1 |
| 熊本放射線外科 | 熊本県 | 1 |
| 熊本県総合保健センター | 熊本県 | 1 |
| 熊本県職員 | 熊本県 | 1 |
| 宇城市民病院 | 熊本県 | 1 |
| 阿蘇温泉病院 | 熊本県 | 1 |
| 玉名中央病院 | 熊本県 | 1 |
| 麻生飯塚病院 | 福岡県 | 3 |
| 福岡記念病院 | 福岡県 | 1 |
| 久留米大学病院 | 福岡県 | 1 |
| 久留米第一病院 | 福岡県 | 1 |
| 九州大学病院 | 福岡県 | 1 |
| 九州電力 | 福岡県 | 1 |
| 済生会八幡総合病院 | 福岡県 | 1 |
| 産業医科大学附属病院 | 福岡県 | 1 |
| 福岡市民病院 | 福岡県 | 1 |
| 福岡大学筑紫病院 | 福岡県 | 1 |
| 福岡徳州会病院 | 福岡県 | 1 |
| 共立病院 | 宮崎県 | 1 |
| 東芝メディカルシステムズ | 栃木県 | 1 |
| 株式会社日立メディコ | 東京都 | 1 |
| 就職小計 | | 31 |
| (進学) | | |
| 熊本大学大学院保健学教育部 | 熊本県 | 6 |
| 進学小計 | | 6 |

| 検査技術科学専攻 (卒業生31名) | | |
|-------------------|-----|----|
| (就職) | | |
| 済生会熊本病院 | 熊本県 | 2 |
| 熊本中央病院 | 熊本県 | 2 |
| 熊本泌尿器科病院 | 熊本県 | 2 |
| 熊本大学医学部附属病院 | 熊本県 | 1 |
| 熊本第一病院 | 熊本県 | 1 |
| 熊本市職員 | 熊本県 | 1 |
| 原内科クリニック | 熊本県 | 1 |
| 整形外科井上病院 | 熊本県 | 1 |
| 高木病院 | 福岡県 | 1 |
| 山王病院 | 福岡県 | 1 |
| 福岡徳州会病院 | 福岡県 | 1 |
| 聖マリア病院 | 福岡県 | 1 |
| 済生会福岡総合病院 | 福岡県 | 1 |
| 長崎大学病院 | 長崎県 | 2 |
| 新武雄病院 | 佐賀県 | 1 |
| 大分県厚生連鶴見病院 | 大分県 | 1 |
| 古賀総合病院 | 宮崎県 | 1 |
| 藤元早鈴病院 | 宮崎県 | 1 |
| 山口県立総合医療センター | 山口県 | 1 |
| 神戸百年記念病院 | 兵庫県 | 1 |
| ファルコ | 京都府 | 1 |
| 三菱化学メディエンス | 東京都 | 1 |
| 聖路加国際病院 | 東京都 | 1 |
| 就職小計 | | 27 |
| (進学) | | |
| 熊本大学大学院保健学教育部 | 熊本県 | 4 |
| 進学小計 | | 4 |

保健学科教員紹介

(平成23年9月現在)

◆看護学専攻

【基礎看護学講座】

教授：前田ひとみ 森田敏子
 講師：木子莉瑛 永田まなみ
 助教：有松 操
 助教：南家貴美代

【看護教育学講座】

教授：花田妙子
 准教授：角田俊治
 助教：福山美季

【臨床看護学講座】

教授：木原信市 宇佐美しおり 国府浩子
 准教授：谷口まり子
 助教：梅木彰子 柊中智恵子 村上美華 白川裕一

【母子看護学講座】

教授：宮里邦子 山内葉月
 准教授：坂梨京子
 講師：寺岡祥子
 助教：生田まちよ 千場直美 吉田佳代

【地域看護学講座】

教授：上田公代 西阪和子 東 清巳
 准教授：永田千鶴

助 教：日浦瑞枝 松本佳代 松本千晴

◆放射線技術科学専攻

【医用理工学講座】

教授：白石順二 富吉勝美 船間芳憲
 准教授：檜垣 強
 助教：米田哲也

【医用画像学講座】

教授：荒木不次男 伊藤茂樹 富口静二
 佛坂博正 村上龍次
 准教授：島村正道
 助教：肥合康弘

◆検査技術科学専攻

【構造機能解析学講座】

教授：二科安三 羽山富雄 柳沼裕二 吉永一也
 講師：伊藤雅浩
 助教：橋本弘司

【生体情報解析学講座】

教授：棚瀬純男 乾 誠治 原田幸一 三森龍之
 准教授：石井俊徳 奥宮敏可
 助教：森 信子 田崎雅義

熊本大学医学部保健学科同窓会会則・細則

熊本大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、熊本大学医学部保健学科同窓会（以下「本会」という。）と称する。
- 第2条 本会は、事務局を熊本市九品寺4丁目24番1号 熊本大学医学部保健学科に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その教育の支援と発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 一 会員相互の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の教育の支援・発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
 - イ 熊本大学医学部附属看護学校、熊本大学医学部附属助産婦学校、熊本大学医学部附属エックス線技師学校、熊本大学医学部附属診療放射線技師学校、熊本大学医学部附属衛生検査技師学校、熊本大学医学部附属臨床検査技師学校を卒業又は在籍した者
 - ロ 熊本大学医療技術短期大学部を卒業又は在籍した者、熊本大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻を修了又は在籍した者、熊本大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程を卒業又は在籍した者
 - ハ 熊本大学医学部保健学科（以下「本学科」という）を卒業又は在籍した者並びに在学生
 - ニ 熊本大学大学院保健学教育部（以下「大学院」という）を修了又は在籍した者および在学生
 - 二 特別会員
 - イ 本学科教員
 - ロ 本学科及び前項の学校の元教員
 - ハ 前項以外のもので理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員は、会費（終身）として1万円を本学科入学および大学院入学時に納入するものと

する。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費、その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
 - 二 副会長 2名
 - 三 理事 12名
(看護6名、衛生3名、放射3名)とする。
 - 四 幹事 7名
 - 五 会計 2名
 - 六 監事 2名
- 第11条 役員は次の職務を行う。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。
 - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
 - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
 - 五 会計は、本会の会計事務に当たる。
 - 六 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
 - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
 - 三 理事は、正会員の中から専攻毎に選出し会長が委嘱する。
 - 四 幹事は、会員の中から会長が委嘱する。
 - 五 会計は、正会員の中から会長が委嘱する。
 - 六 監事は、理事会において正会員の中から推薦し、会長が委嘱する。
- 第13条 役員は、任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
 - 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行うものとする。

第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、保健学教育部長を推戴する。
- 第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
- 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
- 一 事業及び決算報告
 - 二 事業計画及び予算

- 三 会則の制定及び改廃
- 四 役員を選出
- 五 顧問の推挙
- 六 その他の必要と認める事項

2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。

第17条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。

第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。

第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。

第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。

第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。

第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。

第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。

第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。

第25条 理事会は、会長が召集し、議長は会長がこれにあたる。

第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。

第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会計

第28条 本会の経理は、会費及び寄付金、その他の収入を持って充てる。

第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附 則 この会則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

熊本大学医学部保健学科同窓会会計細則

1 同窓会費は1万円とし、本学科入学および大学院入学時に一括納入することを原則とする。

2 本学科同窓会費は、同窓会運営費として使用する。運営費以外に使用する場合は、同窓会理事会の承認を必要とする。

3 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。

4 金融機関に同窓会の口座を設け、会計が通帳・印鑑を管理する。

5 同窓会費の徴収は、入学時に行い、徴収後は速やかに同窓会費支払者名簿を作成する。

6 会計は、会計年度終了時に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。

7 本細則の改正は、同窓会総会で行う。

附 則 この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

平成22-23年度同窓会役員

名誉会長：木原信市（熊本大学大学院保健学教育部長熊本大学医学部保健学科長）

会 長：宮里邦子（熊本大学医学部保健学科看護学専攻）

副 会 長：和田博文（済生会熊本病院中央放射線部）

前田浩（熊本市立熊本市市民病院中央検査部）

理 事：

（看護） 右田香魚子（熊大医学部附属病院） 吉里孝子（熊大医学部附属病院） 岩本幸代（NTT西日本九州病院） 村上順子（済々黌高等学校） 島田那美（熊本市北保健福祉センター） 田中紀美子（九州看護福祉大学）

（放射） 勝田昇（熊大医学部附属病院） 荒木不次男（熊大保健学科） 下東吉信（熊本放射線外科）

（検査） 増永純夫（熊本中央病院） 山下昭一郎（熊大医学部附属病院） 田崎雅義（熊大保健学科）

幹 事：

（看護） 木子莉瑛（熊大保健学科） 千場直美（熊大保健学科） 石田えり（熊大保健学科看護学専攻 4年）

（放射） 肥合康弘（熊大保健学科） 大串玲加（熊大保健学科放射線技術科学専攻 4年）

（検査） 春田昭一（済生会熊本病院健診センター） 中村直子（熊本大学生命資源研究・支援センター）

会 計：船間芳憲（熊大保健学科） 福山美季（熊大保健学科）

監 事：尾山タカ子（熊大保健学科元教員） 東絹子（熊大医学部附属病院）

編集後記

去る3月11日、国難とも言うべき大災害が東北地方を中心に発生し、いまだに福島原発の事故に悩まされている国民に、『なでしこジャパン』が日本サッカーの歴史を塗り替え世界一となり、久々に感動や元気を与え、東日本大震災からの「復興への希望」を持たせてくれました。

第8回熊本大学医学部保健学科同窓会は今年7月2日に開催しました。暑い中多数ご参加をいただき、ありがとうございました。今年の特別講演は「福島原発事故を理解する」をテーマに、卒業生である肥合康弘氏には、演題「放射能の基礎的知識」として放射能や放射線についての基礎的なこと、私たちの体や生活にどのように影響するのかについてわかりやすくお話していただきました。また、橋田昌弘氏には、演題「福島への放射線サーベイ派遣」として、福島に行って調査された状況や体験などについてお話していただきました。想像を絶する程ストレスフルな環境に置かれる被災者に対して、私たち医療者の果たすべき役割の大きさと意義について、深く考えさせられる内容でした。同時に、被災地域の皆様には一日も早い復興を願ってやまない気持ちでいっぱいです。

これからも社会の変化に合わせ、皆様のニーズに応えられるような特別講演を企画していきたいと思っております。来年の同窓会総会の開催は7月第一土曜日に予定しており、その案内を、熊本大学保健学科同窓会のホームページ（<http://hoken.kuma-u.jp/>）に記載しますので、是非ご覧ください、より多くの方々のご出席をお待ち致しております。

千場直美 木子莉瑛
（保健学科同窓会役員）